



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 子育て支援ホームページを受託

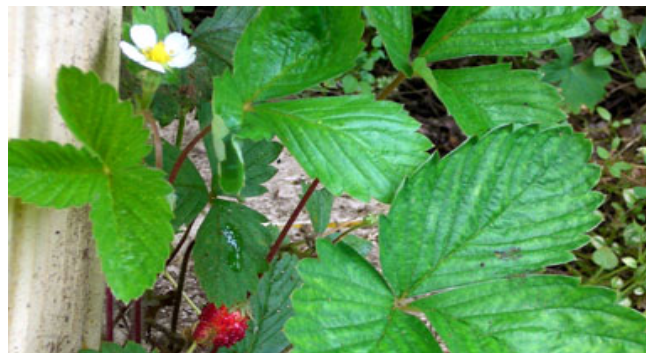
### — 情報収集、メルマガ運営などが課題 —

5月に広報を通じて日光市子育て支援課より「子育て支援ホームページ委託先募集」の通知がありました。私たち「なんとなくのにお」は2004年10月の設立時よりホームページを運営しています。このページ内に子育て関連情報を集約し、メールマガジンも運営すると企画書を提出しました。6月に本会への受託が決定し、以下の方針でこのページ・メルマガを運営することになりました。

(1) **内容および体裁**▼子育てに役立つサークル情報、イベント情報、ちょっとした工夫、おすすめ読み聞かせ本などを掲載します▼情報の即時性、正確性に重点を置きます。画像や装飾は限定し、文字情報を中心に作成します▼過去のイベント情報などの写真掲載も最低限に留め、各団体のページまたはポスター(PDFファイル)へのリンクのみを掲載します▼市内の子育て関連サークルのホームページなど、子育て関連情報へのリンクを充実させます▼市教委、養育園、図書館など各種行政機関の協力を得て運営します▼携帯電話での閲覧も考慮します。

(2) **情報の集約**▼市内および周辺地域の子育て関連情報を集めるための体制作りを行います▼とくに即時性が要求されるのは行事等のイベント情報です。各団体で担当者を決めていただき、メールで情報を受け取り、編集担当者が集約します。

(3) **更新および広報**▼更新は少なくとも2週間に1度を行います▼子育て支援課担当者は更新の内容を閲覧し、不相当と思われるものがあれば編集担当者に連絡します▼日光市ホームページからのリンクを作ることで、子育て情報に関心のある市民がこのページにたどり着くことができます▼ホームページの周知をはかるため、名刺サイズ



のカードを作成し、保育園や学校などで配布します。

(4) **メールマガジン**▼ホームページの内容を要約し、登録者全員に最新の子育て支援情報をメールで送信する仕組みを作ります。簡単な操作で「メルマガ」への登録および解除ができるようなページを作成します。

現在、子育て支援ページ作成のための作業グループをつくり、ホームページ作成、メルマガ用のテキストをホームページ形式に変換する流れなどを検討中です。円滑に子育て関連情報を集める仕組み、メールマガジンの運営体制作りなどがこれからの課題です。

以下がページのアドレス

<http://www.nantonakuno.net/kosodate/>

ご意見、ご希望などありましたら遠慮なくお知らせください。

### 子育て関連団体登録のお知らせ

本ページ中の「いろんな団体」に登録をご希望の団体は、以下の内容を、メール、郵送、ファックスまたは電話連絡でお知らせください。

(1) 団体名、活動内容、代表者連絡先

(2) 会の内容をまとめたA4版1枚のチラシ

メール: [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

郵送 : 〒321-1261 日光市今市378 NPO法人なんとなくのにお 宛  
ファックス: 0288-21-2631

電話: 080-5514-2631 (午後6時から10時くらいにおかけください)

イベント欄に載せる情報もお寄せください。

タイトル、内容の要約、日時、会場、対象、参加費、主催・後援・協賛、申込方法などをメールでお送りください。「件名」欄に「イベント掲載」と書いていただくと助かります。

## 目次

子育て支援ホームページ	1
内田良子さん講演会	2
イベント報告	2
活動日誌	3
子育て勉強会(第3弾)報告	3
こんな本はいかが? (5)	4

### 居場所のひとこま

報徳会館に梅の木があったなんて!  
6月のある金曜日、みんなで梅の実を収穫しました。それぞれが持ち帰り、10日ほどでウメジュースになったものを居場所で味わいました。また来年が楽しみです。  
夏休み中は午後開所です。スタッフのおにいさんと卓球に行き、汗を流すなど、子どもたちは元気です。(N)



こんなにたくさんとれました。

# 不登校ってなに？



**講師 内田良子 (心理カウンセラー)**

内田さんは長年にわたり、いじめなどをきっかけに不登校となった子どもたちと関わってこられました。その経験をもとに、子どもの心が感じていること、登校拒否や不登校という行動を通じて訴えていることについて、やさしく、わかりやすくお話いただきます。

「不登校って、いったい何だろう？」 内田さんといっしょに考えてみませんか。講演終了後、質問コーナーも予定。たくさんの方々のご参加をお待ちしています。

**日時: 2008年10月25日(土)**  
午後2時～3時30分

(終了後、質問コーナー 午後5時まで)

**会場: 日光市中央公民館・中ホール**  
日光市平ヶ崎160 Tel. 0288-22-6211

**主催: NPO法人 なんとなくのこわ**  
<http://www.nantonakuno.net/>

**共催: 日光市**  
**後援: 日光市教育委員会**  
**参加費: 500円 (高校生まで無料) 託児あり**

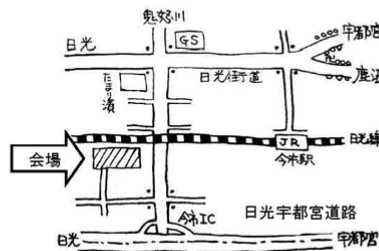
**お問い合わせ: 手塚 (電話/FAX 0288-21-2631)**

「なんとなくのこわ」は毎週火曜日、金曜日、報徳今市振興会館で午前10時から午後4時まで「子どもの居場所」を運営しています。火・金、上記の時間、申し込みを受け付けますので、電話 0288-21-3517(会館) へご連絡ください。

当日参加もOKです。

## 講師紹介

心理カウンセラー  
子ども相談室「モモの部屋」を主宰  
NHKラジオ電話相談  
「子どものこころ相談」アドバイザー  
約35年間にわたり、東京都内の病院や保健所で、登校拒否、不登校等、子育ての悩みを持つ親子に接する。「子育てはなぞとき」など、子育てに関する著書あり。全国各地での講演活動も精力的におこなっている。



## 内田良子さん 講演会のお知らせ

「不登校が一般に理解されないことがつらい」。昨年の「子育て・親育ち勉強会」で保護者の方から出された意見です。「不登校、登校拒否を、その子なりの生き方を探すためのきっかけと、前向きにとらえ、保護者、子どもたちを励ますお話をいただければ…」  
昨年10月に講演依頼のファックスを内田さんに送りました。それから1年、いよいよ内田良子さんの講演会が実現します。チラシの配布、チケット販売など、ご協力いただける方、ご連絡ください。



## イベント報告

### ■ 元気UPナチュラルプロジェクト2008

だいや川公園にて7月27日(日)開催。今市青年会議所の催しです。昨年同様、私たちは紙ブーメラン、紙トンボで参加しました(写真)。他団体の参加内容は次のとおりです。パイプでつくる笛(日光青年会議所)、草葉で作る昆虫・広告紙で遊ぼう(萌工房)、手品(日光市レク協会)、空き缶笛(だいじょうぶ)、スギ板材のミニミニ工作(鬼怒川流域森林林業活性化センター)、お手玉づくり・お手玉遊び(虹の会)、首長恐竜(ボーイスカウト今市)、アイスホッケーシューティングゲーム(日光アイスボックス)、木のおもちゃ(今市工業高)、バードコール(おおきな木)、自然とふれあうゲーム・ネイチャーゲーム(日光市探検隊)、水鉄砲・昔の遊び(今市青年会議所)。青年会議所のおにいさんが、子どもたちと水鉄砲で遊んでいる姿が印象的でした。紙ブーメラン、紙トンボとも大人気で、子どもたちがひっきりなしに訪れました。昼過ぎに雨模様になり、午後1時ころ中止となりました。

### ■ あさやサイエンスパークに協力

鬼怒川温泉あさやで開かれる夏のイベント、「サイエンスパーク」に協力しました。今年で3年目になります。紙ブーメラン、紙トンボ、紙UFO、プラ板アクセサリ、スライム、浮沈子などなど、それぞれの持ち場で「なんにわ」のスタッフが活躍しました。望遠鏡作り、手作りプラネタリウムなどの制作も見学させてもらったので、後日、サイエンス・カフェの材料にと考えています。





## ☆ 活動日誌



- 5月17日(土) むかしばなし玉手箱(第3回)  
前回の活動日誌での記入漏れです。申し訳ありません。  
子どもたちが静かに聞き入っていました。(右写真)
- 5月26日(月) 発達障がい支援者連絡会(第27回)
- 6月7日(土)・8日(日) 登校拒否・ひきこもり・家庭内暴力・どうすればいいの?  
内田良子さん研修会(さくら市喜連川、栃木登校拒否を考える会)  
参加(白井 西尾、加藤、手塚)
- 6月14日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成、沼尾)
- 6月24日(火) 新潟県佐渡市金井地区民生委員児童委員協議会来所  
民生委員など14人の方が佐渡から研修行事で来所されました。インターネットで本会の活動を  
知ったそうです。報徳会館広間で交流会を行いました。(西尾、白井、沼尾、手塚)
- 6月28日(月) 発達障がい支援者連絡会(第28回)
- 6月29日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 7月4日(金) 子育てサークル情報交換会・中央公民館(吉成、手塚)
- 7月5日(土) 第22回理事会(市民活動支援センター)
- 7月13日(日) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成)
- 7月16日(水) 元気UPナチュラルプロジェクト2008 打ち合わせ会(吉成勇一)
- 7月25日(金) メールマガジン打ち合わせ(ノア・宇都宮市)(吉成、沼尾、手塚)
- 7月26日(土) 子育て・親育ち勉強会 第3弾 「うちの子、ちょっと気になる?」と思ったら
- 7月26日(土) ワカモノフェスタ実行委員会(加藤、吉成)
- 7月27日(日) 元気UPナチュラルプロジェクト2008(吉成勇一、西尾、小倉、手塚) 前ページ記事
- 7月27日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 7月28日(月) 発達障がい支援者連絡会(第29回)
- 7月30日(水) ~8月2日(土) 「サイエンスパーク in あさや」に協力(鬼怒川温泉あさや)

## 子育て・親育ち勉強会 (第3弾) を開催

アンケートまとめ(9名の方から回答をいただきました)

### 1. 勉強会を何で知ったか。(重複解答あり)

①知人・友人(3名) ②チラシ(5名) ③新聞(1名) ④広報(1名)

### 2. 印象に残った点や感想など

■二次障害にならないようにすることや、やる気について  
の大切さを改めて感じました■今の自分と子どもの状況  
しかわからないが、いろいろなタイプのお子さんがあるん  
だと思った。自分たちだけが大変なわけではないんだ  
と思った■二次障害を起こさせない事が大事。Cタイプの  
どこでも差がないのが扱いにくい。幼いままだという事。  
どんな時にトラブルを起こすか→どのように解決している  
か観察すると見えてくる■育て方の問題だけかと思いま  
しましたが、発達障害の可能性も視野に入れて考えてみよう  
と思った。個人的な質問に答えていただき、個別の対応  
の仕方がわかり、子どもへの接し方も変えてみようと思っ  
た■障害を持った子の親の周りを見てくれる人、助けて  
くれる人を増やしていく。学校と保護者の距離を埋めて  
いく■全てありがとうございました■子どもの事をよく知っ  
て理解してあげる。対応してあげたい■発達障害の中で  
いろいろな事がわかった気がします。いろいろ勉強にな  
った。

### 3. 今後、勉強会でどのような話を聞きたいか

■ソーシャルスキルの方法や親の対応の仕方等の具体的  
な話■目先のことや現在のことに対応するのに精一杯  
なので、今後何に向けて(目標をつけて)いったらいいの  
か。どういうことに気を付けていったらいいのか■子ども  
のタイプ別に子どもへの対応を知りたい■発達障害を含  
め、子供たちに関する問題を紹介したり、いろいろな方  
の子育てに関する考え方を紹介してみてもどうか■今後  
の子どもの出方次第・・予想が付きません■本日のような  
講義を是非・・。

### 4. 情報交換の場に、参加してみたいか

お茶飲み会(4名)、支援者連絡会議(5名)

## 発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が  
自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく  
集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民  
活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由  
の会です。

気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井)

連絡先: 日光市民活動支援センター

(電話:0288-22-2271)

〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

<http://www.nantonakuno.net/>



## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

## こんな本はいかが？ その5

加藤さんが武蔵大「社会学特講G」で紹介した書籍のレビュー（その2）

### 不登校の歴史とその社会的背景（2）

■ ポール・ウィリス 熊沢誠、山田潤（訳）1985

『ハマータウンの野郎ども 学校への反抗 労働への順応』  
イギリスの労働者階級の子弟に見られる反学校文化はネガティブなものではなく、子どもたちが労働者として適応していく積極的なプロセスであることを示している。日本の不登校と比較する時には読んでおきたい。ちなみにイギリスの場合は学校からドロップアウトしていく事例があまりにも多すぎて、日本のような問題認識を持たない。

■ 森田洋司 1991『不登校現象の社会学』 現在型不登校、不登校のグレイゾーンというキーワードで不登校の問題を子どもたちの間で広く見られる登校回避感情の中に見出せるとしている。文部科学省の不登校政策に多大な影響を及ぼしたと思われる本。全国の中学生6000人に行ったアンケート調査をデータにしており、登校回避感情は7割の生徒に見られるとしている。不登校はより一般的な子どもの問題であり、対策を打つべしとしているが、「針小棒大」（本人も述懐している）である。管理化に拍車をかけるような議論をしてどーする。

■ 東京シュレー編 1991 『学校に行かない僕から学校に行かない君へ-登校拒否・私たちの選択』 登校拒否／不登校は子どもの選択であるとする視点を示した本。当時は登校拒否は子どもの病気であるかのような見識がまだ根強かったため、誤解を解く意味で当事者が手記を書くことは意義のあることだったと思われる。学校に行かないことは一つの権利行使である、という文脈でも読むことが可能。

「大人は憲法第二十二條職業選択の自由アハハーンを振りかざして、堂々と愛想のつきた会社を辞めることが出来ますが、なぜ子どもは堂々と愛想のつきた学校をやめることが許されないのでしょうか」

■ 小沢牧子 2003 『「心の専門家」はいらない』

臨床心理学者である著者がスクールカウンセリング制度を批判した、いわば臨床心理学批判の本。カウンセリングはことの問題を子ども本人の心のあり方に還元し、社会的あるいは学校の問題を隠蔽するものとして機能することの危険性を訴えた。またカウンセリングによる心の支配（ソフトな管理）を問題視する。スクールカウンセリングが学校による子どもたちの管理化を強化させるように機能していることには注意が必要である。河合隼雄を見事に批判して見せた画期的な本といえる。

■ 貴戸理恵 2004

『不登校は終わらない-選択の物語から当事者の語りへ-』 大学院生の修士論文に修正を加えたもの。東京シュレーが提唱した登校拒否／不登校選択論に対し、一定の政治的インパクトを認めたくて、「選択の物語」は必ずしも全ての不登校当事者に適用できず、その外部にある物語を捨象しないように多様な当事者の物語を考えたいとしている。それはそれとして分かるが、大学院生の論文というアカデミックな権威をもって民間のフリースクールを批判する本を出版することの政治的なインパクトについて覚悟を持っていたのかは謎である。（加藤敦也）

### 現在の会員数

正会員:35、賛助会員:16

団体会員:3 入会金はありません。

年会費(一口)は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんとなく」の活動の約30%は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

## なんとなくのへや

ちょっと調べ物をするときを使うのがウェブ検索。「インターネット」の代名詞、「ワールドワイドウェブ・WWW」は1990年に基礎物理学の研究者が資料を共有するために作った仕組みが始まりです。その研究所「CERN」のホームページには“Where the web was born”（Web発祥の地）とさりげなく書かれています。「ホームページ」を「インターネット」と呼ぶのは間違いだ、「ホームページ」ではなく「ウェブ」だ、などの用語についての混乱は、あまりに急速な普及の結果。いまやインターネットは誰でも知っている道具になってしまいました。けれど、どうつきあっていくかについては、当分の間、試行錯誤の時代が続くそうです。今回のホームページ受託もそんな流れの中のささやかな試みです。使いやすく、親しみのあるものにしていきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いします。（T）